

辺野古通信

第57号 2017年4月8日



ゲート前座込みを排除する機動隊(3/16)

3.25 シュワブゲート前集會に 3500人(沖縄タイムス)



発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)

沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

沖縄の弾圧は共謀罪の先取りだ！防衛局は違法工事を止めろ！

■仲井眞前知事の岩礁破碎許可は3月末で期限が切れた。4/5 翁長知事は岩礁破碎許可の再申請を求め行政指導。4/6 防衛局は「岩礁破碎許可は不要」と拒否しボーリング調査を続行、今月下旬には埋立て工事の第一段階となる護岸建設工事に着手する構えを見せている。県は護岸の基礎となる大型ブロックなどが海底に投下され次第、差止め訴訟を提起、合わせて仮処分も申請する見込みだ。3/25 のゲート前集會に初めて登壇した翁長知事は、埋立て承認「撤回」を明言。辺野古新基地建設を阻止する闘いは重要な局面を迎えた。■防衛局が岩礁破碎許可を不要とするのは、本年1月に名護漁協が「臨時制限区域内」の漁業権を放棄したことを根拠としている。農水省も水産庁長官名でこれを追認した。しかしこれは従来の農水省見解とも矛盾する。「漁協の漁業権放棄は私権としての権利放棄に過ぎず、公法としての漁業法が定める漁業権の変更は都道府県知事の変更免許が必要」というのが専門家の意見だ(3/16 琉球新報)。実際、辺野古同様に漁業権放棄された海域の那覇空港滑走路をめぐっては工事を進める沖縄総合事務局が県と同様の見解を示し知事に許可申請している。法の抜け道を探し解釈を捻じ曲げて

でも何が何でも辺野古新基地建設に固執する政府・防衛省の頑迷な姿勢は一貫している。防衛局は違法工事を止めよ！■3/18 山城博治さんが長期勾留生活から解放された。3/8にも1人解放され残るは1人だけとなった。この間の早期釈放署名、拘置所内外での持続的な抗議行動、国内外の識者、国際人権団体の声明などの取り組みの成果だ。それにしても治安維持法下の予防拘禁をも想起させる異常な長期勾留。保釈後も容疑とされた「事件関係者」との接触禁止。人権無視も甚だしい。3/21に共謀罪法案が閣議決定され強行上程されたが、まさに辺野古・高江の弾圧体制は、共謀罪の先取りだ。4/6には辺野古で2人、普天間で1人が不当逮捕された。■沖縄差別政策を推し進める安倍政権の支持率は、森友・防衛省日報隠し・福島被災者切り捨て問題等々で低下傾向にあるが、それでも50%程度に高止まり。東京MX局の沖縄ヘイト番組に象徴されるように、「本土」メディアの沖縄報道のあり方も大いに関係している。5/23講演集會へ！■辺野古現地座込み闘争へ！6/10(土)午後の国会包圍行動へ！■辺野古・高江カンパは、2,214,055円(4月8日現在)。引き続きカンパを！郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

「本土」メディアの沖縄報道を問う～5.23 横浜講演集會へ

5月23日(火)18時半から

講演の他に、辺野古の座込み参加報告、映像上映も予定。

■講師：金平 茂紀 さん

(ジャーナリスト、TBS「報道特集」キャスター)

■会場：横浜市開港記念会館2階6号

(JR 関内駅南口10分、みなとみらい線日本大通り駅1番出口1分)

■主催：島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会



3/25辺野古ゲート前集会に3500人



大会決議全文

私たちオール沖縄会議は「オスプレイの配備撤回」「普天間基地の閉鎖・撤去」「辺野古新基地建設断念」を求め日本政府に突き付けた。2013年の『建白書』の精神を礎に「オール沖縄」としてこれまで翁長雄志沖縄県知事を支え活動を展開してきた。

こうしたなか、昨年4月、沖縄が本土に復帰後、最も残酷な事件が起こった。行方不明となつていなくなるまでに住む女性が遺体で発見されたのだ。元米海兵隊員で軍属の男が未来ある二十歳の命を奪った凶悪な事件は沖縄県民に耐え難い恐怖と衝撃、深い悲しみを与えた。

また、昨年の12月には、米海兵隊普天間基地所属の垂直離着陸輸送機MV

22オスプレイが名護市安部集落の海岸に墜落大破する事故が発生した。同日、別のオスプレイも夜間に普天間基地へ胴体着陸する事故を起こし、その後も民間地上空での吊下げ訓練が激化するなど、今や大規模オスプレイ墜落の危険性は沖縄県全域に広がっている。

今年には復帰45年の節目の年である。沖縄県民はこれまで、幾度となく「基地があるが故の事件や事故に抗議し、日米両政府や米軍に対し再発防止の徹底と綱紀粛正を強く求めたが、切なるその願いは未だ聞き入れられていない。強大な日米両政府の権力は復帰後も「司法・立法・行政」の手において「三種一体」となり沖縄県民の牙を向け続けている。

国が沖縄県を訴えた代執行訴訟をはじめとする前代未聞の法廷闘争に代表

されるように、新基地建設の問題はこの国の民主主義、地方自治の根幹を揺るがした。法治国家でありながら、ありとあらゆる手法と手段で沖縄県民の民意を庄殺し続けているのが今の日本政府である。

私たちが沖縄県民は強く訴え続ける。世界一危険な普天間基地の危険性を放置し続け20年間以上固定化し続けている。一番の当事者は日米両政府である。私たち沖縄県民は強く訴え続ける。国民の当然の権利である生存する権利を、自由及び幸福追求の権利を、そして法の下の平等を。

現在も辺野古ゲート前では「各地域に結成された多くの市民会」を中心に県内外から結集した個人や各種団体が「沖縄県民は決して屈しない」という非暴力・無抵抗の座り込みを中心とし

た粘り強い闘いが行われている。これは復帰後最大級の県民運動である。「弾圧は抵抗を呼ぶ。抵抗は友を呼ぶ」「今こそ立ち上がろう！」私たちが「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」は、沖縄県民と全国の多くの仲間の手を組んで『違法な埋立工事の即時中止と辺野古新基地建設の断念』を強く日米両政府に求める。以上、決議する。

宛先
内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、沖縄担当大臣、米国防務長官、駐日米大使
2017年3月25日
違法な埋立工事の即時中止・辺野古新基地建設断念を求める県民集会
「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」

新幹線を走らせるのか。このうい話はやめてほしい。私たちが心を一つにして包容力を持ち、新辺野古基地は絶対に造らせないと言ってきた。けれども県内外の仲間たち、世界中から寄せられる多くの激励を肌感覚としてしかりと頑張り抜くことができた。

県民の心折れぬ

山城議長長の誓い響く



参加者と握手を交わす沖縄平和運動センターの山城博治議長（中央）＝25日午前、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前（大城直也撮影）

「大会参加の皆さま、帰り込みが長く現場で謝意をつたえることができませんでした。ありがとうございます」と、博治「オール」と共に大きな拍手が沸き起こった。「どんなに権力が、安倍内閣が私たちを襲ってきてくも屈しない」

「心一つに新基地阻止」知事

ある心を折ることはできないでしょう。抑圧される者が、差別と犠牲を強いられる者が、くじけないで頑張り続ける姿を私たちは発信します。これから控える裁判は、具体的には私たち被告に重なる裁判であるだろうけれども、実態は、声を上げ続ける県民全体、全国の仲間たち全てにかげられた攻撃だ。安倍内閣がどんなに牙をむき出そうとも、私たちは闘い抜く。炎のような私たちの思いを今日も発信していただきますよう、お願いを申し上げます。

© 2016 Okinawa Times Inc.

辺野古新基地阻止の闘争は、新たなステージに入っている。今日は山城博治さんの姿もあつたようだ。今日を期して沖縄の新しい戦いが始まる、という意味で私も参加した。国のやり方は、米軍占領下を思い出す。銃剣とブルドーザーで家屋敷をたたき壊し、新しい基地を造って県民の住む場所を奪った。まったく同じ手法で、あの美しい大浦湾を埋め立てようとしている。米軍基地は沖縄経済発展の最大の障害要因だ。本土の人はよく「あなたがたは基地で食べてるんでしょ」「だから基地を預かるのは当たり前じゃないか」と言ったり前には「抑止力のために四国も九州も、米軍基地を預かっているから橋を架け、

訪沖レポート
3/15-18

山城博治さん保釈！長期勾留は共謀罪の先取りだ！

3月15日(水)

天気快晴。水曜日の集中行動日。7時頃には続々と人が集まり約100人に。搬入車両の動きなし。座込み参加者は9時過ぎから増え始め午後になっても250人以上の参加、機動隊も手出しはできない。結局終日資材搬入はなかった。

3月16日(木)

曇り空。昨日に続いて6時過ぎに辺野古に到着、キャンプシュワブの工事用ゲート前に座り込む。平和フォーラムの全国動員50人と「うるま島ぐるみ会議」40人が参加、座込みは約120人に。地元ベテランの大城名護市議が議会報告。平和フォーラムは九州から北海道まで全国各地からの参加者が紹介され、一言アピールが続く。

きょうは朝から資材搬入車両が待機していた。9時頃、機動隊が動き出す。大型の警察車両2台が座込み行列の前に進入、約100人の機動隊員が整列。腕を組んで座り込む一人一人を力づくで排除。怒号とシュプレヒコールの中を数十台の車両が次々と工事用ゲートから入る。

再び工事用ゲートが閉じられ、座込み再開。北谷、うるま、沖縄市、読谷の島ぐるみ会議、普天間、嘉手納爆音訴訟団の発言。高江現地行動連絡会からも報告。「高江では監視活動を継続中。これ以上の森の破壊、人権侵害を許さない」と。ヘリ基地反対協の安次富浩さんからは本日午前中の翁長知事の記者会見の報告。「岩礁破碎許可申請をしないで作業を進めようとする防衛局に抗議し工事差し止め訴訟を提起した。翁長知事は鹿児島県知事と違う。現場で頑張ることで知事を奮起させたことこそ求められている。」と強調した。

午前中の座込み行動が終わり、テントで食事している時に突然機動隊が動き出した。慌てて工事用ゲート前に駆けつけるも機動隊に排除される。座り込みが10数人になった15時過ぎにも3回目の排除があり、生コン車9台進入。とにかく水曜日集中行動以外の日はガンガン資材搬入を進めている。防衛局の焦りの表れだが、とにかく座込み参加者を増やすことが求められている。

3月17日(金)

きょうは山城博治さんら3人の第1回公判。7時過ぎに出て那覇に向かう。22人の傍聴席の抽選にマスコミ関係者も含めて約400人が並ぶ。9時過ぎから那覇地裁前の公園で事前集会開始。狭い公園に人が溢れる(写真)。地裁周辺には昨日まで高江と辺野古で過剰警備していた機動隊。正門はバリケードで閉じられ、裁判所職員、警備員、公安、機動隊が後方で目を光らせる。「こんな異様な光景は見たこともない」とベテラン弁護士。

弁護団、安次富浩さん、高里鈴代さん、平和フォーラム、各政党から発言。「これは沖縄以外にも関係する問題。安倍政権を司法が後押ししている」「沖縄を国家権力の思い通りにする。この流れの中に山城さんらの長期勾留がある」・・

10時から傍聴券を当てた22人が法廷へ。事前集会終了後も、公園から裁判所前に移動して一部がバリケードと警備で閉じられた正門に座り込み、法廷の中まで響けと、全員で歌とアピール。12時半ごろに裏門出口にマスコミと支援者が殺到し傍聴者と弁護団を迎えた。

再度公園に集合して報告集会。車椅子の島袋文子さんの姿も。三宅弁護士の発言。「検察は山城さんが黙秘しているから接見禁止で保釈も認めないと説明した。黙秘権という権利行使を理由に外に出さないというのは異常。裁判所に判断能力がない、検察に全て従えと言っているに等しい。3人とも無罪を堂々と主張した。無罪の3人を取り戻すために頑張ろう」

報告集会は13時半ごろ散会。遅い昼食を済ませて辺野古に向かう。15時半頃到着。ゲート前は裁判のため警備が手薄で、資材搬入の動きなし。夜の県民広場での第一回公判報告集会は400人参加し国際通りをデモ行進。この日の午後に弁護団が保釈請求、夜9時過ぎに地裁は保釈を認めたが不当にも地検が保釈執行停止請求し地裁が保釈を取りやめ、地検が抗告し高裁の判断待ち。

3月18日(土)

雨が降ったり止んだり。きょうも朝6時半過ぎにミーティング、7時から辺野古工事用ゲート前で座り込み。土曜日は議員行動日。司会は平和市民連絡会の高里鈴代さん。約150人、議員は国会議員1人、県議10人、市議数十人全員決意表明。午前中の資材搬入の動きはなかったが、辺野古を離れた正午過ぎにごぼう抜きがあり、工事用車両7台が進入した模様。水曜日を除いて、座込みの手薄な時間帯を狙って、どんどん資材を搬入している。埋立に使う栗石がシュワブ内にかなり積み上げられている。生コンプラントの進捗も気になる。とにかく一人でも多く、座込みへ！

那覇空港で搭乗直前に辺野古テントから「山城さんが保釈されるかもしれない」と一報。半信半疑で機内でも落ち着かなかったが、羽田に到着すると、高裁が地検の抗告を棄却して保釈決定の情報。一安心。それにしても5ヶ月は長かった。その間に防衛局は高江と辺野古の工事を進めた。まさに治安維持法下の予防拘禁そのものであり、共謀罪の先取りだ。



2.24神奈川集会に200人参加！安次富さん、伊波さんが講演

2/24(金)の夜、「民意より米軍優先の沖縄差別政策を許すな！オスプレイ撤去！辺野古新基地建設阻止！2.24 神奈川集会」が神奈川県民センターホールで開かれた。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」と「基地撤去をめざす県央共闘会議」、神奈川平和運動センター協賛。沖縄現地が緊迫する中で、これに呼応し神奈川から改めて声をあげようと企画された。ホールほぼ満席の200人が参加、熱気あふれる集会となった。会場で呼びかけた「辺野古・高江現地支援+座込み派遣基金カンパ」が123,256円も集まった。また山城博治さんらの早期釈放を求める那覇地裁と地検あての要請はがきも完売した。

集会は、高梨晃嘉・結ぶ会代表世話人の司会で開会。仲宗根保・代表世話人（鶴見沖縄県人会元幹事長）からの主催者挨拶に続いて、沖縄から安次富浩・ヘリ基地反対協共同代表、伊波洋一参議院議員（元宜野湾市長）の二人が講演した。

安次富浩さんは講演の冒頭、「今日の午後の山城博治さんらの釈放を求める大集会に2000人が集まった！」と報告。会場から大きな拍手。「辺野古、高江、沖縄のいま・・・」と題する52コマのパワーポイント映像を駆使して、1997年12月の名護市民投票まで遡り、名護市長選から名護市議選、県知事選、衆院選の勝利を経て、昨年元海兵隊員による女性暴行殺人事件に抗議する闘い、全国6都府県から500人の機動隊を動員しての高江オスプレイパッド建設強行を阻止する闘い、不当逮捕と弾圧、国策追従の最高裁判決と辺野古の海上作業の再開に至る闘いを振り返った。そして「宮古島市長選、浦添市長選とオール沖縄の候補が連敗し苦しいが、4月のうるま市長選では必ず勝利したい。私たちの運動を弱体化しようと弾圧を強めているが、世界の運動とつながりながら、現場では粘り強く闘っている。私たちは翁長知事を支える。安倍政権によるオール沖縄の分断を許さない。来年は名護市長選挙がある。これで負けたらとんでもないことになる。知事選もある。そこに向けて闘いを強める。私たちの闘いは苦しい局面にあるが、安倍政権と対峙する沖縄と連帯して神奈川のみなさんも闘って欲しい」と力強く呼びかけた。

続いて伊波洋一さんが登壇。伊波さんは「日米軍



事再編と沖縄」のテーマで、戦後の沖縄の米軍基地の形成の歴史から現在の在沖米軍の現状にも触れ、世界一危険な普天間基地と「辺野古移設」の経緯をたどった。在沖海兵隊は2012年の日米合意で9000人がグアムやハワイ、米本土などへ移転することが決まっている。2015年にはアマコスト元米駐日大使も「沖縄海兵隊は死活的に重要ではない」「沖縄の反対運動は広範で、これほど高い政治的コストに比べて海兵隊基地の戦略的価値はどれほどあるのか」と語っている。にもかかわらず日本政府は「辺野古移設」にこだわり続けている。さらに伊波さんは宮古八重山諸島における自衛隊の基地建設について言及した。アメリカの対中国包囲戦略の中で、「沖縄を戦場にして中国と戦う」役割を自衛隊に求めている。陸自の有事即応部隊、ミサイル部隊の奄美大島、沖縄本島、宮古島、石垣島配備はそのように位置づけられている。伊波さんは「戦争の準備ではなくて、中国と友好関係を発展させること、尖閣問題乗り越えて、中国の平和台頭を日本の平和発展につなげること重要であり、喫緊の課題である」と指摘、「沖縄基地問題は解決されねばならない。米軍占領で確保した土地を未だに基地にしている。こんなことは許されない。普天間飛行場を30年も継続するのは解決策ではない。国会の場で引き続き頑張っていきたい」と結んだ。二人の沖縄からの訴えに、会場から大きな拍手。

連帯挨拶は神奈川平和運動センターと共謀罪反対の市民運動から。最後に集会アピール案が辺野古座込みから戻ったばかりの結ぶ会メンバーから読み上げられ、大きな拍手で確認された。

集会後の交流会には約30人が参加。安次富さん、伊波さんを囲んで交流を深めた。

